

『長岡市スポーツ振興基本計画』

～市民が自らスポーツを楽しみ健康で生きがいを感じるまちづくりをめざして～

進 捗 の 検 証

〔計画概要〕

- 計画策定 平成20年3月
- 計画期間 平成19年度 から 平成28年度 まで

〔基本方針〕

1 スポーツ振興の意義

- スポーツ振興法に基づき、文部科学省が策定したスポーツ振興基本計画では、「スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つである。」と定義づけられています。
- スポーツの振興は、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有しています。

2 スポーツ振興の基本目標

「市民が自らスポーツを楽しみ健康で生きがいを感じるまちづくり」

- (1) スポーツを自ら楽しむまち
- (2) スポーツ好きな子どもを育てるまち
- (3) スポーツ活動支えることに喜びを感じるまち
- (4) スポーツ観戦好きなまち

3 計画の検証方法について

基本目標を達成するため、市民の生涯スポーツ推進の理念のもと、スポーツ活動に対するそれぞれの関わり方を「する」「育てる」「支える」「観る」の4つの視点からとらえ、各小学校区域を基本としたコミュニティ推進組織との協働体制を構築することにより、本市のスポーツ振興施策を展開してきました。

このことを踏まえ、基本施策の体系別及び「スポーツ施設の充実」を含め進捗状況について検証を行いました。

施策の柱1 するスポーツの振興

計画策定時の施策の方向

市民一人ひとりが生涯にわたって運動・スポーツ活動に親しむ態度や習慣をどのように定着・発展させるかという観点から、各ライフステージにおける運動・スポーツ活動との関わりに基づいた生涯スポーツ社会形成のための施策を展開します。具体的には、18歳以上の市民のうち50%が、週1回以上運動やスポーツ活動を行うことを目指します。

(平成19年6月現在：35.4% → 平成22年目標：50.0%)

1 青年・成人期スポーツの促進

少子化や指導教員不足などの理由で中学・高校部活動が縮小・廃止傾向にあり、これが一因となり、中学・高校生のスポーツ離れが顕著となっています。特に、女子の実施率が男子に比較して低い状況にあります。このため、地域や競技団体との連携を図り、専門指導者の派遣や、もっと専門的に競技スポーツを行いたい生徒の受け皿の構築を図っています。

成人期は、就職・結婚・子育てなど生活の変化により、これまでの学生生活から一転してスポーツに親しむ時間が少なくなり、各年代と比較しても極端にスポーツ実施率の低下が見られることから、家族単位で地域コミュニティの教室やクラブへの参加や、空き時間等を利用しての健康増進のためのジョギングなど、ライフスタイルに合わせたスポーツ活動の継続図っています。

また、健康づくりのためには、「運動・食事・休養」のバランスの取れた日常生活を送ることが大切です。運動の実践は、生活習慣病予防やストレス解消にも役立つことから、多世代の市民の皆さんが、誰でも、気軽に「運動・栄養・休養」のバランスの取れた健康づくり活動に取り組めるプログラムの普及啓発や定着に努めています。

『主な取り組みの成果』

○コミュニティスポーツクラブの育成

長岡地域で31地区、支所地域で中之島・三島・小国・与板の4地域がコミュニティセンター化を図り、地域住民が自主的・主体的に運営するコミュニティスポーツクラブを形成しています。また、国のスポーツ基本計画で推奨する「総合型地域スポーツクラブ」も、蒼柴・川口・山古志・寺泊・中之島・三島の6団体が設立され、地域資源を活用し、地域に根差した活動を展開しています。

○地域交流スポーツ大会等の開催

本年度で第30回の記念大会を迎える地域交流スポーツ大会は、各地区におけるスポーツを通じた仲間づくり、日頃の成果発表の場、地区相互の交流を目的に、秋から3月ま

でに 12 種目を行い、毎年約 3,000 人が参加しています。

○各種スポーツ教室の開催

青年・成人層を対象とするスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブが開催しているスポーツ教室数は52クラブです。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19 (基準値)	H28 (目標値)	H27 (直近実績)
スポーツ教室・クラブ開設数	797 クラブ	1,000 クラブ	854 クラブ

2 高齢者スポーツの普及

スポーツ協会や主要体育施設指定管理者が、高齢者を対象としたマスターズスポーツクラブ、健康体操教室などを開催しています。近年は総合型地域スポーツクラブの開設に合わせて、高齢者向けの運動やスポーツ教室の開催も増えています。

また、競技団体でも高齢者向けのスポーツサークル、クラブ、初心者教室を開催しています。市民組織と連携して、高齢者向け健康体操などの指導者を養成し、各種教室に指導者を配置しているほか、地域からの要請に応じて指導者の派遣も実施しています。

また、介護予防では、高齢者を対象として、生活機能全体の維持・向上を通じ、居宅で活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるように、運動機能向上のための教室を継続的に実施しています。

- ・貯筋クラブ：転倒骨折予防に効果的な体操プログラムを提示し、運動習慣の定着が図られるように啓発するための教室（H27 参加延べ人数：1,433 人）
- ・水中運動教室：主に膝や腰等に痛みのある人に対して、痛みの軽減と運動習慣の定着のため浮力を利用した水中運動プログラムを実施する教室（H27 参加延べ人数：626 人）
- ・フェニックスシルバースポーツクラブ：高齢者が、高齢者センターみやうちの機能訓練室を自由に使用して自主的に運動に取り組む教室（H27 参加延べ人数：3,537 人）

『主な取り組みの成果』

○マスターズスポーツクラブの育成（高齢者を対象としたクラブ数）

高齢者を対象としたマスターズクラブ（スポ協・総合型開催）は55クラブです。

○高齢者スポーツ大会の実施

高齢者スポーツ大会は、市と市老連の共同主催で行っていますが、毎年参加者が減っていることから、競技の見直しや、広く各地域からの参加の呼び掛けを行っています。

また、高齢者を主に対象とした長岡市内大会開催数は57大会あります。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
高齢者対象各種大会参加数	1,023 人	1,500 人	1,161 人

3 障害者スポーツの充実

健常者に比べ、スポーツに触れることの少ない障害者に対し、その機会を提供するため、スポーツに関する講習会、教室等を行ってきました。また、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる企画を毎年実施しています。これらの活動の参加者は年々増加傾向にあり、少しずつではありますが、障害者スポーツへの理解は広まりつつあります。加えて、福祉課では平成23年から障害者スポーツ用品の貸出を行っており、さらなる普及を進めています。今後もスポーツ振興課、県障害者スポーツ協会等の関係機関と連携を取りながら、より効果的に活動を展開していきます。

競技としての障害者スポーツについては、その活動拠点や指導者・支援者等が不足しています。このため指導者の養成を図り、障害者スポーツの活動の裾野の拡大を行うとともに、全国障害者スポーツ大会等への参加者の増を図っています。

『主な取り組みの成果』

○参加機会の充実

講習会、教室等事業の際は、障害者施設等へのチラシ配布のほか市政だよりの記事に掲載するなど障害者が事業を把握できるような積極的な周知を行い、参加機会の充実に努めてきました。また、一部事業では下肢不自由等で移動が困難な方について送迎を行うなど参加しやすい環境を整えています。

○ノーマライゼーションの推進

障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる企画により、相互交流の場としているものや、内容に障害理解に関する講習を取り入れている事業も実施し、共生社会の実現を目指す取り組みを実施しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
社会参加促進事業（教室等）参加数	328 人	550 人	407 人

4 学校と地域社会の連携

【学校体育施設の活用】学校体育施設については、市立のほとんどの小・中学校の体育館及びグラウンドを学校開放することにより多くの団体が使用しており、市民の身近

な活動場所として欠かすことのできないものとなっています。しかし、近年は、学校近隣住民からの、学校開放時の騒音やボールの飛び出し、利用マナーなどの苦情が増加しており、施設の使用方法について学校開放利用者との調整が課題となっています。

【コミュニティと学校の関わり】コミュニティ推進組織が企画する地域の野球大会やソフトバレーボール大会などのスポーツ関連事業について、コミュニティセンターだけでなく、学校体育施設等も活用して実施しています。

『主な取り組みの成果』

○学校を拠点としたコミュニティスポーツクラブ

身近な場所でスポーツに親しむ環境として、地域内の学校体育施設は重要であり、地域内のクラブチーム・スポーツ少年団の活動や各種スポーツ教室・サークル活動の拠点として活用しています。

○各団体の連携促進

(公財)長岡市スポーツ協会が主催する「こどもスポーツクラブ」や「わんぱく教室」などの事務局を各コミュニティセンターが行うことで、学校体育施設を効率的に利用することができています。

また、希望が丘地区ではコミュニティ推進組織内に地域の各種団体と連携して「あそびの城実行委員会」を組織し、コミュニティセンターだけでなく学校体育施設も利用し、小学生を中心にスポーツをはじめとする様々な体験活動を実施しています。

○効果的な学校開放

市政だよりやホームページで利用者を募集し、平成27年度は、地域の小学生や成人等を対象とした各種スポーツクラブなど約800団体が学校開放で学校体育施設を利用しました。利用申し込みの多い時間帯には、体育館を半面単位で貸し出すことにより、より多くの団体が利用できるように工夫しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19 (基準値)	H28 (目標値)	H27 (直近実績)
学校開放利用者数 (年間延べ人数)	1,114,069 人	1,200,000 人	1,326,725 人

施策の柱2 育てるスポーツの推進

計画策定時の施策の方向

子どもたちのスポーツ活動の機会を学校教育現場のみに限定することなく、「熱中!感動!夢づくり教育」活動との連携を図る中で、地域においても楽しみながら身体を動かすことができる環境づくりを実現するため、指導者やコーディネーター（地域住民と行政との調整役）の養成・育成を積極的に推進していくとともに、地域においてスポーツ活動を展開する人材のネットワーク化を支援する体制づくりを推進します。

1 子どものスポーツの充実（乳児期、幼児期の運動・スポーツ活動）

【子ども家庭課の取り組み】現在、安全確保のための外遊び場の減少、メディアの発達、スマホ育児、少子化による異年齢の集団での遊びそのものの減少など、体力・運動機能が自然に高まる状況が難しくなっています。長岡市では子育ての駅を開設し、年間を通して体を動かしたり、遊べる場所を全市に整備しました。子育ての駅で、親子で楽しむ運動の講座を開催したり、各コミュニティセンターを会場に母子保健推進員が乳幼児を対象にした親子体操（出前講座を使用）を開催し、親子が運動にふれあう機会を設けています。

乳幼児にとって、思う存分走り回ったり、登ったり、滑ったりして体全体を動かす運動が必要です。そのためには親への意識啓発と運動を体験できる機会を増やしていくことが重要です。今後も子育ての駅での親子で身体を動かして楽しむ講座の開催を継続すると共に、母子保健推進員の地区活動と連携しながら、身近なコミュニティにおいて乳幼児が身体活動や親とのスキンシップの場を提供できるように推進していきます。

【スポーツ協会の取り組み】公共体育施設を活用して、少年スポーツに導くきっかけづくりとして、幼児・親子対象の運動教室（未就園児対象）や親子運動遊びのイベントをスポーツ協会や体育施設指定管理者が開催しています。また、競技団体と連携してキッズスポーツ教室やクラブも運営しています。併せて、スポーツ協会では、コーディネーショントレーニングなどの最新の脳科学の方式を取り入れ、脳と身体の発育発達に合った子どもの運動遊び指導者の養成を行っています。更に、保育士研修会や児童厚生員、スポーツ推進委員の各研修会への講師派遣や、依頼に応じて保育園、地域の親子サークルなどへの指導者派遣も行っています。

科学的根拠をベースとした幼児期の運動遊びの重要性を踏まえ、効果的で取り組みやすい運動遊びプログラムの普及を推進するとともに、子どもの体力・運動能力の向上、運動・スポーツに親しむ習慣や意欲の向上に努めています。

『主な取り組みの成果』

○乳幼児の運動機能、能力向上

乳幼児・幼児期を対象とした運動・スポーツクラブ数は14クラブです。(スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブが主催)また、親子運動遊び教室体験会、ジュニアスポーツフェスタ、スポーツ・レクリエーションフェスタなどの様々なイベントを開催しています。

H27年度の乳幼児・幼児期を対象としたサークル、イベントなどへの指導者派遣数は26回です。

2 子どものスポーツの充実(少年期の運動・スポーツ活動)

地域で子どもたちがスポーツに親しめる場として、スポーツ少年団やジュニアスポーツクラブの育成・支援を行ってきました。単一種目に取り組むクラブが多く、小学3、4年生以上の加入率が依然として高い状況にあります。このため、低学年以下の子どもたち対象に、放課後運動スポーツ教室・クラブ(スポーツ少年団)をコミュニティセンターや総合型地域スポーツクラブと連携して実施しています。

また、中学校部活動などへの参加を促進させるため、熱中!感動!夢づくり教育の一環として市内小学生を対象に、「夢づくりスポーツ推進事業(32種目)」をスポーツ協会と競技団体が連携して実施するとともに、種目スポーツへの参加のきっかけづくりを狙いとして、多種目のスポーツを一日で体験できるジュニアスポーツフェスタを開催しています。

『主な取り組みの成果』

○少年期の運動機能、能力向上

児童生徒の体力や運動技能の実態を把握し、「1学校1取組」運動に基づき、全学校が体力向上に努めています。

平成27年度全国体力・運動能力運動習慣等調査結果(小学校5年生、中学校2年生)では、長岡市は全国平均値を大きく上回っています。これまで小学校5年生において、県平均を下回っていた「シャトルラン」の数値が、一昨年、昨年と男女とも上回っています。また、中学校2年生の「ボール投げ」については、全国平均、県平均とも下回る結果となりました。

また、スポーツ少年団を育成し、コーディネーショントレーニングなど子どもの運動機能、能力向上プログラムを実施しています。(H27年度現在、スポーツ少年団は10地域13クラブで活動)

○少年スポーツクラブの育成

スポーツ協会登録のジュニアスポーツクラブ数は224クラブです。

(参加人数はH27年度実績で4,200人、うちスポーツ少年団2,687人)

少子化と、スポーツをする子しない子の二極化により、スポーツ少年団員は減少しています。(H19:3,894人 → H27:2,687人 約1,200人の減)

○トップアスリートと子ども達の交流

世界や全国で活躍する有名選手等から直接指導を受けることにより、熱中・感動体験を与えることを目的にトップアスリート招聘事業を行っています。近年では、野球の桑田真澄氏、競泳の寺川綾氏、陸上の末續慎吾氏、バドミントンの潮田玲子氏、車椅子テニスの国枝慎吾氏、器械体操の田中理恵氏、サッカーの福西崇史氏らが来岡しており、ジュニア選手の競技力向上等を図っています。

○学校体育の充実

各学校において、全職員共通理解の下、教育活動全体を通じて学校体育の充実を図っています。

- ・平成16年度から県教育庁保健体育科が推進している、健康増進・体力向上計画のための「1学校1取組」運動に基づき、各学校で計画し実践を行っています。
- ・体育授業の工夫改善、業間運動等の取組、職員研修、学校行事と関連付けた体力づくりの取組等、各学校で具体的な実践を通して児童生徒の体力向上を図りました。
- ・各学校では体力面だけではなく、子どものよりよい生活習慣の育成に向けた取組を実施しています。
- ・平成19年度から毎年長岡市の体力テストの結果を分析し、概要及び今年度の取組の留意点等を市立学校に通知しています。

○学社（学校体育と社会体育）連携の促進

- ・夢づくりスポーツ推進事業：32種目で開催し、参加者は約3,500人です。
- ・ふれあいスポーツアシスタント事業（小学校体育授業への指導者派遣）
運動・スポーツを楽しむためのプログラムを実践する「わくわくコース」と、教員のコーディネーショントレーニング指導補助・助言を行う「コーディネーショントレーニングアシストコース」を実施しています。
(わくわくコース：H27・H28年度の2ヶ年で、長岡市内全小学校で実施)
(コーディネーショントレーニングアシストコース：年3校ずつ実施)
- ・学校・部活からの派遣要請に応じて、各種目の指導者、トレーナーや栄養士などを派遣しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
子ども対象スポーツ教室・少年団参加数	4,732人	5,400人	4,200人

3 競技スポーツの充実

2009 トキめき新潟国体の開催を契機として、全国を舞台に活躍できる選手輩出を目指し、競技団体（29 種目）と連携して小学生から高校生までのジュニアアスリートの育成・強化を進めてきました。現在、2020 東京オリンピック・パラリンピックに長岡市からの多数の選手が出場できるよう、可能性のあるターゲット選手を指定して、日本代表、日本ランキング上位進出を目指した強化活動を支援しています。

ドクター、トレーナー、管理栄養士で組織される「スポーツ医科学サポート機構」が中心となって、市内高校強豪チームの選手に対して、栄養やトレーニング（メンタル・フィジカル）、コンディショニングの面について、専門的に指導を行っています。

地元アスリートの全国大会入賞を目標に、幼児から高校生ままでを対象に、可能性を持った選手の拡大（タレントプールの拡大）、卓越性を持ったジュニア選手の発掘、そして卓越性を伸ばす強化までの戦略的な一貫した強化システムの構築を図っています。

『主な取り組みの成果』

○競技力の向上、育成強化システムの確立

- ・育成強化システム：対象選手やチームの選定、指導育成体制の確立、選手強化事業（定期練習会開催、遠征合宿派遣、トップコーチ・チームの招へい、ターゲット選手育成支援、医科学サポート）を実施しています。
- ・選手強化事業実施団体数：H26～H28 年度の 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技力向上事業実施種目は 8 種目です。
（競泳、飛込、陸上競技、テニス、バレーボール、バスケットボール、サッカー、体操競技）
- ・H26～H28 年度のジュニア選手育成事業実施種目は 29 種目です。
（うち、8 種目が特別強化指定）

○国体等開催を契機とした地元選手の育成

国体開催を契機とし市内開催種目を中心に競技力の向上と、選手育成システムの構築を目指して強化プログラムを展開してきました。これを受け継ぎ、2020 東京オリンピック・パラリンピックターゲット選手数 43 名を選定し、強化支援を実施しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
全国大会県予選ベスト4進出数	398 人	650 人	455 人

4 指導者やコーディネーターの養成・配置

【スポーツ推進委員・普及員】現在市内には、166 名のスポーツ推進委員と 262 名のスポーツ普及員がおり、各地域スポーツ活動のコーディネーター役として活動をして

います。それぞれの地域において、新たなスポーツ・レクリエーションの普及や、地域のニーズに即した運動・スポーツ活動を提供しています。

【スポーツ協会】スポーツ指導者を養成するため、スポーツ協会では年2回のペースで、(公財)日本体育協会スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成講座の実施や、指導力向上のための研修会を実施しています。また、競技団体が主体で行う著名なコーチ等による指導者研修会の開催や中央競技団体が実施する資格取得講習会への参加を支援しています。

こどもの体力・運動能力向上を目的として、運動遊びや子ども向けのコーディネーショントレーニングを指導できる指導者や地域のリーダーを養成し、放課後の運動スポーツ教室・クラブ(スポーツ幼年団)で活用しています。

引き続き、子どもの体力・運動能力向上、少年スポーツの普及・促進、競技力の向上、生涯スポーツ推進に対応して指導ができる人材の発掘・養成と資質・価値の向上に努め、指導者相互の組織化、連携体制を構築していきます。また、国が提言している「グッドコーチを目指すためのモデルコアカリキュラム」を参考に、体罰・ハラスメントの撲滅と、経験則だけに頼らない、科学的な根拠に基づいた安全な指導法の習得、新しい時代にふさわしい指導者資質、態度を身につけられる長岡版のモデルコアカリキュラムを策定し、全ての指導者が学んで実践できる体制づくりを進めています。

『主な取り組みの成果』

○指導者やコーディネーターへの研修、養成

【スポーツ推進委員】例年、市全体研修会(兼新任研修会)、冬季研修会のほか、二市三刈羽ブロック・中越総合・新潟県・北陸地区等の研修会に参加し、知識及び技術を取得しており、特に近年は「障害者スポーツの推進」に関する研修を数多く実施し、障害の有無に関わらず誰もが身近な場所でスポーツに親しむ環境づくり図っています。

○発掘、育成、配置、派遣システムの確立

- ・H27年度のスポーツ少年団の登録指導者数は、716名です。
- ・H27年度の健康・体力づくり指導者は44名、子どもの体力・運動能力向上指導者は25名です。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19(基準値)	H28(目標値)	H27(直近実績)
日本協公認スポーツリーダー資格取得数	92人	400人	503人

施策の柱3 支えるスポーツの推進

計画策定時の施策の方向

地域における多様なニーズに応え、コミュニティスポーツ活動の充実を図ることで、市民一人ひとりのライフステージに応じた運動・スポーツ活動を支え、「コミュニティスポーツクラブ」の設置促進等による自立した地域スポーツ社会の形成に向けた具体的施策を推進するため、関係機関との協働による推進体制を整備します。

1 コミュニティスポーツクラブの設置促進

長岡地域では、各地区のコミュニティ推進組織が地区で活動するサークルや関係者との連絡調整を行っており、支所地域においても、コミュニティセンターの開設に合わせ、スポーツ関連事業の推進体制の確立と実施事業の充実を図っているところです。

また、コミュニティ推進組織が未結成の地域については、既存の総合型地域スポーツクラブによる事業実施と合わせ、今後、推進組織の立ち上げを検討しつつ、クラブとの連携や調整を行っていく必要があります。このため、平成27年度から1名のエリアアドバイザーを配置し、新規コミュニティスポーツクラブ創設を支援しています。

『主な取り組みの成果』

○コミュニティスポーツクラブの広報啓発

コミュニティ推進組織で実施しているスポーツ関連事業について、コミュニティ広報紙等に掲載することで、地域住民に対し、活動内容を広く周知するよう努めています。

しかし、コミュニティ推進組織が未結成の地域については、クラブの整備とともにスポーツ関連事業の広報啓発方法について、検討する必要があります。

○民間スポーツ施設・情報の利用促進

コミュニティスポーツクラブの活動の拠点は、各コミュニティセンターや学校体育施設が主体となっています。近年は健康・体力維持のために個人として民間のジムやプールの活用や、民間のヨガ、フィットネス等の教室に通う方が増えていますが、民間事業者であるため、情報の提供や利用促進は図っていない状況です。

○スポーツ振興関連助成金の活用促進

地域住民の自主的なコミュニティスポーツ活動の活性化を図ることを目的に、コミュニティスポーツ推進組織の活動に対し5万円を上限として補助金を交付しています。

また、コミュニティスポーツ活動の促進と、新たなサークル・クラブ設立のきっかけ

づくりとして、専門の講師を派遣する出前教室を実施しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
コミュニティスポーツ出前教室参加数	2,984 人	5,000 人	4,513 人

2 地元選手、チーム、クラブの市民挙げての支援

地域のスポーツ少年団やジュニアスポーツクラブでは、財政・労力面、指導・育成面などの多方面にわたって支援するボランティア指導者、保護者、活動に賛同する個人・企業などの「育成母集団」の体制づくりに努めており、種目を統括する競技団体では、会員のボランティアシップに支えられている状況にあります。

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、世界大会や全国大会等で活躍する選手やその指導者などの活躍をさらに市民に PR することで、機運醸成を図っています。

現在、スポーツボランティアの登録システムはありませんが、社会福祉センターの移転に伴い、ボランティアセンターの機能拡大により「スポーツボランティア」等の登録についても一元化する方向で検討しています。

『主な取り組みの成果』

○スポーツボランティア、競技審判員等の養成

- ・ H27 年度のジュニアスポーツクラブ育成母集団は 142 団体です。
- ・ H27 年度の審判員養成講習会等（更新講習含）の市内開催は 14 団体です。

○優秀選手、指導者の激励、表彰

全国大会に出場する市内小・中・高校の選手の激励会をハレの場であるアオーレ長岡で開催し、報奨金等を支給するほか、全国や世界で活躍する選手や有望選手の活躍などを市政だより、スポーツ協会広報誌に掲載するなどして、市民への PR を図っています。また、優秀選手については、市・市教育委員会及びスポーツ協会で表彰を行っています。

○地元クラブやチームの住民支援

各コミュニティの競技団体の活動に際して、どのような住民支援があるかは、各地域によっても異なりますが、平成 27 年度、日越地区のインディアカチームが日本代表としてワールドカップに出場した際は、地域挙げて激励会を開催しました。

地元学校の児童生徒の全国大会出場や地元出身者の冬季オリンピック出場、地域交流スポーツ大会での地元チームの活躍などが地域に活気をもたらすことから、今後も地域内の競技者を応援する体制づくりを行っていきます。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
地域クラブ等を支援したい市民の割合	13.2%	50.0%	18.5%

施策の柱4 観るスポーツの振興

計画策定時の施策の方向

スポーツを観ることで、そこで得る感動と興奮を家族・職場・地域等で共通の話題として共有し、家族や仲間とのふれあいが深まることによって連帯感や一体感が醸成され、地域の活性化にもつながります。市民の「観るスポーツ」を振興するため、「アルビレックス新潟」との連携等によりスポーツ観戦ができる機会の充実を図ります。

1 観る機会の拡大

年々トップレベルのスポーツイベントや大規模大会の開催が増加傾向にあります。

新潟アルビレックスBBのホームアリーナが「アオーレ長岡」に決まり、WJBL オールスター戦及びバスケットボール女子日本代表国際強化試合が開催され、秋にはB.LEAGUE が開幕、11 月にはバレーボールVプレミアリーグの試合開催も予定しております。

また、大規模大会については、全国中学校水泳競技大会をはじめ、東日本ソフトテニス選手権大会、中部日本バドミントン選手権大会ほか北信越大会の開催が3大会予定されており、シティプロモーションの観点からも、観るスポーツの振興においても、観戦機会が増えることは重要でありことから、積極的にトップレベルのスポーツイベントや大規模大会の誘致、支援を行っています。

『主な取り組みの成果』

○トップレベルのスポーツイベントの誘致

平成 25 年に春巡業大相撲アオーレ長岡場所、バドミントン日本リーグ 2013 長岡大会、平成 27、28 年度にフィギアスケートアオーレ長岡を開催しました。

○大規模大会の誘致、支援

平成 21 年度に「トキめき新潟国体」と「トキめき新潟大会」、平成 24 年にインターハイ、平成 25 年に第 89 回日本選手権水泳競技大会競泳競技、全日本古希軟式野球大会、平成 26 年に全日本 9 人制バレーボール実業団女子選手権大会を開催しました。平成 28 年度は全国中学校水泳競技大会などを開催する予定です。

○親子ふれあい機会の促進

ジュニアスポーツフェスタ等での新潟アルビレックスブースを設置し、親子ふれあいの場を提供しています。

『具体的活動の評価項目』

具体的活動項目	H19（基準値）	H28（目標値）	H27（直近実績）
スポーツ観戦を楽しみたい市民の割合	27.0%	70.0%	36.3%

2 地元メディアとの連携

これまでは市政だよりやポスター・チラシ等の紙媒体中心の周知であったが、アオーレ長岡等の大型ビジョンの活用やインターネット上の告知なども盛んにおこなわれるようになりました。また、イベント情報の発信手段として、まいぷれ長岡（HP）、まるごと生活情報（フリーペーパー）、アオラジ（FM 新潟）など、地元メディアを活用し、多種多様な周知を行っています。

『主な取り組みの成果』

○地元メディアとの連携強化

平成 27 年度には、NCT（ケーブル TV）を活用した広報番組において、総合型地域スポーツクラブなどの取り組みを紹介する番組を作成しました。イベント等の周知はもとより、市の取り組みなどの情報発信においても活用していきます。

スポーツ施設の充実（振興方策の基盤）

計画策定時の施策の方向

スポーツ施設の新・増設や、既存施設の一層の機能充実や有効活用を図り、市民の多様なニーズに応えることのできる施設運営を、市民とともに進めていくことを基本として、身近な施設での市民のスポーツ環境の整備を促進します。

● 公共スポーツ施設の整備・活用促進

新たな公共スポーツ施設建設及び既存施設の改修等を行うため、平成21年3月に「長岡市スポーツ施設整備基本構想」を策定しました。

構想に基づき、老朽化の著しい施設については、安全確保を第一に修繕、維持管理に努め、また、施設の改修や新規施設について、計画的に整備を進めました。

『主な取り組みの成果』

○主要体育館の大規模改修を行いました。

市民体育館、北部体育館、南部体育館の屋根・外壁の大規模改修を行いました。

○陸上競技場のリニューアルと再公認取得

第2種公認期間の更新に併せ、全天候型トラックの全面改修を行いました。

○新規施設の整備

既存施設で補えない特定種目の専用施設として、『器械体操専用練習場』を整備しました。

また、新たな屋外施設の拠点として『ニュータウン運動公園』の整備に取り組み、サッカー場、屋根付多目的コート、多目的芝生広場を整備しました。

『基本施策の目標』の推移

1 長岡市総合計画の目標

(1) 市民が身近な場所で運動やスポーツを行う拠点づくりを進める。

【市内の教室・クラブ開設数】

H18 (基準値)	H22 (目標値)	H27 (直近実績)
724 クラブ	900 クラブ	854 クラブ

(2) ジュニア期からの選手育成強化システムの確立により、競技選手の育成・強化を推進する。

【市内の中学・高校生の全国大会予選において、ベスト4に進出した選手数】

H18 (基準値)	H22 (目標値)	H27 (直近実績)
398 人	500 人	455 人

2 長岡市スポーツ振興基本計画の目標

(1) 18歳以上の市民のうち50%（2人に1人）が週1回以上運動やスポーツを行うことをめざす。（総合計画前期終了年度までの中間目標）

【週1回以上運動やスポーツを行う人の割合】

H19 (基準値)	H22 (目標値)	H28 (目標値)	H27 (直近実績)
35.4%	50.0%	65.0%	43.7%

(2) 18歳以上の市民のうち35.0%（3人に1人）が定期的なスポーツ教室やクラブ等に所属できる環境づくりをめざす。（総合計画前期終了年度までの中間目標）

【定期的なスポーツ教室やクラブ等に所属している人の割合】

H19 (基準値)	H22 (目標値)	H28 (目標値)	H27 (直近実績)
26.8%	35.0%	50.0%	34.5%